

Ⅲ 神代の杜

第1 総括

1 地域密着型施設としての取組と安定した施設運営

神代の杜は、調布市内で唯一の地域密着型特養として独自の取り組みを行うとともに、本体施設である調布八雲苑のサテライト施設として、ただ単にバックアップの下で運営するのではなく、緊密な連携を取りつつ、単独施設として安定した経営基盤を築けるよう努力することが求められる。

また、地域密着型施設は、調布市に事業者としての指定を受けていることから、事業計画書、事業報告書や運営推進会議議事録に基づき、適時、施設運営について報告し、指導・助言を受けている。

地域密着型特養としての地域貢献の取り組みとしては、北ノ台まちづくりネットワーク（地区協議会）の運営委員としての参画していることで、神代の杜の認知度が高まり、各種団体のボランティア活動が増加した。ボランティア活動の延べ人数も平成27年度が189人、平成28年度が228人、平成29年度が291人となり、増加傾向にある。

経営面においては、前年度の収支差額率が、マイナス3.6%で資金収支は、185万円の赤字であった。

本年度の特養の利用率については、年間で94.4%となり、目標よりも2.6ポイント低かった。その結果、本年度の収支差額率は、マイナス6.9%で資金収支は、582万円の赤字となった。

赤字となった要因としては、大別すると2つである。

第1には、前年度より特養、ショートステイともに利用率が低下したことである。その原因として、特養では年間での退去者が定員の3分の1に当たる10人となり、それまでの平均退去者数の4.7人を大きく上回った。

入院日数については、前年度の207日から314日と大幅に増えたことで空床状態が長く続き、収入源である介護報酬と利用者負担額の減少を招いた。

本年度の入院に至った症状で最も多いのは、唾液等の分泌液が鼻腔や口腔内にたまり、吸引器を使って除去する必要がある入居者が増加した。神代の杜では、看護師も含めて喀痰の吸引が出来る職員が4人と少ない。このことから、喀痰吸引が必要となった入居者の入院が増加した。

喀痰吸引については、神代の杜において喫緊の課題であるため、介護職員が喀痰吸引研修に参加して施設内で対応できる体制を構築していきたい。

ショートステイは、継続利用者の有料ホームへの入居や新規利用者の獲得が進まないことで、利用率の維持・向上に苦戦せざるを得ない状況が続いた。

第2は、支出面での増加である。人事面では職員の処遇改善や臨時介護職員の欠員を正規介護職員で補充せざるを得ない状況から、人件費が昨年度と比較し

600万円増えた。施設の修繕費についても、1月の寒気の影響で屋上のエアコン室外機と給水管の破裂の修理代が、63万円となり収支が悪化した。

第2 経営実績

1 目標値に対する実績

目標値に対する実績は、次のとおりである。

(単位：%)

事業名	目標値	平成29年度 実績	平成28年度 実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 利用率	97.0	94.4	95.4
短期入所生活介護 (ショートステイ) 利用率	80.0	58.0	67.5

第3 事業報告

1 重点事項への取組

(1) 地域密着型特養（3ユニット）としての機能を活かしたユニットケアの展開

本年度の新規入居者は、9人で開設から最も入退去者が多い年となった。特に2つのユニットは、4人の新規入居があったことで、入居者のほぼ半数が変わり、入居者が互いのことを知る間もなく、次々に入退去があった。これにより、入居者間の関係性の構築に苦慮することもあった。

しかし、ユニット内で行う小規模での余暇活動をとおして、互いを知る機会を提供した。

また、余暇活動やユニット会議を行う際に、他ユニット職員が協力したことで、自身が所属する以外のユニットをフォローし合える関係性が醸成されつつある。

(2) 適切な人材確保・育成を図るための方策

介護業務は、年々細分化し業務量も増加している。それにともない、修得すべき知識、技術も増えている状況である。このことにともない、入職後の業務の習熟期間が長期となっている。

特に、週40時間未満勤務の職員は、勤務日数が少ないことで、より長期間に亘る指導が必要となり、指導する職員と指導される職員の精神的負担が増大し、職員間の関係性にも影響することがある。

このことから、日勤帯専従や夜勤帯専従で勤務できる職員を積極的に採用し、特定の勤務に特化することで、指導期間が短期間となり、習熟するまでの精神的負担が軽減できた。

また、ダブルワークで勤務している者を採用した際に入浴業務に特化したことで、集中的に業務指導し短期間で指導期間が終了した。

(3) 地域密着型施設としての役割と地域包括ケアシステムの確立について

北ノ台まちづくりネットワーク（地区協議会）に運営委員として参画していることで、北ノ台地区で活動している各種団体との関係性が構築できつつある。このことにともない、ボランティア活動や余暇活動の申し入れが増加した。

活動のなかには、地域の老人クラブ主催での余暇活動の実施と各種団体が神代の杜地域開放スペースでの茶話会等を開催することで、入居者の生活の風景を見てもらえる機会となった。

また、2か月に1回開催している運営推進会議は、地域密着型施設がどのようなものを理解してもらうきっかけとなり、委員がそのことを発信してくれることで、地域との懸け橋の役割も担っている。

(4) ユニットケアにおける個別ケアの実践

個別ケア実践のための24時間シートを活用して、入居者個々ができるところとどのようなサポートが必要かを確認した。入居者のケース担当職員がその確認を行ったが、24時間シートの見直しの際に適宜会議を開催できないこともあり、職員間での情報共有が十分ではなかった。

その結果、職員全員が知るべき情報が一部の職員のみしか知らないという状況も散見された。

次年度は、24時間シートの書式を見直し、得られた情報を共有するための会議を適宜開催できるよう取り組んでいく。

2 実績報告

(1) 特養（介護老人福祉施設。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	818	838	838	10	869	868	870
5	858	859	860	11	803	804	803
6	761	764	764	12	835	836	836
7	843	844	844	1	845	846	847
8	872	872	873	2	795	794	795
9	810	810	810	3	843	843	843
				計	9,952	9,978	9,983

(2) ショート（短期入所生活介護。以下同じ）利用者食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	37	44	38	10	47	57	46
5	37	41	36	11	48	58	48
6	41	48	43	12	35	41	34
7	51	58	52	1	40	50	41
8	50	58	49	2	36	44	37
9	56	63	58	3	44	55	44
				計	522	617	526

(3) 行事食献立一覧 (特=特養、シ=ショート)

月日	行事名	課名	献立内容
4月7日	リクエストメニュー	特・シ	えびカレー、キャベツのツナ和え、杏仁豆腐
12日	リクエストメニュー	特・シ	筍ご飯、ホッケの塩焼き、ひき肉炒め、お茶福豆
26日	もりカフェ	特・シ	フルーツプリンアラモード、飲み物4種
5月5日	子どもの日	特・シ	いなり寿司、やわらかチキン、若竹煮、そうめん汁
24日	もりカフェ	特・シ	苺ショート、フルーツのジュレ等、飲み物4種
6月2日	リクエストメニュー	特・シ	あさりご飯、豆腐のくず煮、きんぴらごぼう他
28日	もりカフェ	特・シ	フルーツパフェ、苺杏仁豆腐、飲み物4種
27日	おやつイキング	特・シ	ケーキ、水ようかん、葛まんじゅう、他
7月7日	七夕	特・シ	七夕そうめん、天ぷら、卵豆腐、七夕ゼリー
26日	もりカフェ	特・シ	プリンアラモード、白桃のジュレ、飲み物4種
25日	土用の丑	特・シ	うな井、がんもとぜんまいの煮物、山芋乙女和え、他
8月30日	リクエストメニュー	特・シ	冷やしうどん、かき揚げ、マンゴープリン、他
23日	もりカフェ	特・シ	チーズケーキ、シフォンケーキ、飲み物4種
9月18日	敬老祝い	特・シ	握り寿司、お浸し、澄まし汁、さつま芋小豆
29日	リクエストメニュー	特・シ	山菜そば、かき揚げ、ピーチゼリー
27日	もりカフェ	特・シ	モンブラン、かぼちゃプリン、飲み物4種
10月5日	リクエストメニュー	特・シ	秋茄子カレー、コールスローサラダ、やわらか杏仁
18日	リクエストメニュー	特・シ	かぼちゃコロッケ、ふきの煮物、春雨三色酢の物
25日	もりカフェ	特・シ	安納芋のケーキ、飲み物4種
11月22日	もりカフェ	特・シ	紫芋のモンブラン、栗の生クリームロール、飲み物4種
12月25日	クリスマスメニュー	特・シ	ピラフ、チキンナゲット、ポテトサラダ、ナポリタン、他
31日	年越し	特・シ	年越しそば、天ぷら、酢の物、みかん
1月1日	元旦	特・シ	赤飯、おせち料理、雑煮、ねりきり、甘酒
7日	七草	特・シ	七草粥、えびしゅうまい、豆腐のくず煮、漬物
24日	もりカフェ	特・シ	ティラミス、苺のプリン、飲み物4種
26日	リクエストメニュー	特・シ	たぬきうどん、レモン煮、白和え、みかん
2月3日	節分	特・シ	散らし寿司、大豆とひじきの煮物、鯛つみれ汁、他
28日	もりカフェ	特・シ	苺ショート、プリン、飲み物4種
3月3日	ひな祭り	特・シ	桜寿司、鱈の菜種焼き、すまし汁、苺と白桃
28日	もりカフェ	特・シ	モンブラン、プリン、飲み物4種

(4) 研修体系

体系別の研修状況は、次のとおりである。

なお、内容欄の数字は、「(5) 研修の状況」の「No.」を表している。

体系		内容	回数
一般研修	新任職員研修		
	現任職員研修	1	1
	副主任研修		
	主任研修		
	課長研修		
	施設長研修		
専門研修	看護師研修	2	1
	栄養士研修		
	ユニットリーダー研修	5	1
	介護職員研修	4、6、8	3
	機能訓練指導員研修		
	介護支援専門員研修	7	13
	生活相談員研修		
事務職研修	3	1	

(5) 研修の状況

施設外研修の参加状況は、次のとおりである。

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
1	6/23	東京防災救急協会講習会	公益法人東京防災救急協会	1	1
2	7/23	看護・ケアの視点セミナー	日本通所ケア研究会	1	1
3	9/7	指定更新事業者研修会	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	1
4	9/11	平穏死の意味	調布東山病院	1	1
5	9/20～22 10/16～20	ユニットリーダー研修	日本ユニットケア推進センター	1	8
6	11/1	経口維持に関する研修会	東京都社会福祉協議会	1	1
7	1/11～3/19	東京都介護支援専門員実務研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	13
8	3/5	ユニットケア研修フォーラム 2018	日本ユニットケア推進センター	1	1

研修参加人数合計 8 人、延べ参加人数合計 27 人

(6) ボランティア等の状況

調布市社会福祉協議会広報誌にシーツ交換、庭掃除のボランティア募集を定期的に行ったところ、本年度から近隣在住の 3 人が活動に加わった。このことから、前年度と比較して延べ人数が 63 人増加した。

(単位:人)

活動団体・内容等		人数	延べ
全般・諸活動	ピアノ・フルート演奏	2	4
	歌・ピアノ弾き語り	1	10
	琴演奏	3	33
	フラダンス	10	20
	輪投げ	8	16
	演芸	5	5
美化	草取り、樹木剪定、菜園	10	63
	シーツ交換	6	140
合 計		45	291

(7) 年齢状況 (特別養護老人ホーム・定員29名)

入居者の平均年齢は、89.6歳であり、前年度と比較して1.6歳上昇した。

平成30年3月31日現在 (単位:人)

No.	年齢別	男	女	計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0
2	65～70歳未満	0	0	0	0
3	70～75歳未満	0	0	0	0
4	75～80歳未満	0	1	1	3.7
5	80～85歳未満	2	5	7	25.9
6	85～90歳未満	1	6	7	25.9
7	90～95歳未満	0	6	6	22.3
8	95～100歳未満	0	4	4	14.8
9	100歳以上	0	2	2	7.4
合 計		3	24	27	100.0
最高年齢 (歳)		86	103	—	—
最低年齢 (歳)		83	78	—	—
平均年齢 (歳)					—

(8) 在籍期間 (特別養護老人ホーム)

本年度の入居者は、9人となっている。また、11人が開設当初の入居者である。

平成30年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	計	構成比 (%)
1	1年未満	2	7	9	33.3
2	1年以上～2年未満	1	2	3	11.1
3	2年～3年未満	0	1	1	3.7
4	3年～4年未満	0	1	1	3.7
5	4年～5年未満	0	2	2	7.4
6	5年以上	0	11	11	40.8
合計		3	24	27	100.0

(9) 退去状況内訳

本年度の退去者は、10人であり、その内容は下記のとおりである。

平成29年4月1日～平成30年3月31日

No.	性別	年齢	退去月	退所理由	在籍期間	要介護度
1	女	101	6月	施設内で死亡	2年5か月	5
2	女	88	9月	入院先で死亡	1年8か月	3
3	男	76	9月	長期入院加療	1年7か月	4
4	男	71	9月	長期入院加療	6か月	3
5	女	84	10月	入院先で死亡	5年1か月	5
6	女	92	11月	入院先で死亡	2年7か月	4
7	男	87	1月	有料ホームへ転居	3年4か月	4
8	女	85	1月	長期入院加療	4年3か月	3
9	女	96	2月	施設内で死亡	2年	3
10	女	103	3月	長期入院加療	1年	4
平均		88.3	—	—	2年5か月	3.8

(10) 月別要介護度分布表（特別養護老人ホーム）

前年度の平均介護度は3.9であったが、本年度は0.1ポイント上昇し、4.0となった。

（単位：人）

月	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
4	0	1	6	15	6	3.9
5	0	1	6	14	8	4.0
6	0	1	6	15	7	4.0
7	0	1	6	15	7	4.0
8	0	1	6	15	7	4.0
9	0	1	6	14	8	4.0
10	0	1	7	12	9	4.0

11	0	1	8	12	8	3.9
12	0	1	8	12	8	3.9
1	0	1	9	12	7	3.9
2	0	1	9	13	6	3.8
3	0	1	8	12	7	3.9
構成比 (%)	0	3.5	24.6	46.5	25.4	100

(11) 月別利用実績（特別養護老人ホーム）

目標利用率を2.6ポイント下回り、2年続けて目標達成できなかった。目標以下となった原因は、年間での入院日数が、314日で前年度よりも107日多い状況となったためである。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	839	870	96.4
5	860	899	95.7
6	763	870	87.7
7	850	899	94.5
8	870	899	96.8
9	810	870	93.1
10	871	899	96.9
11	805	870	92.5
12	836	899	93.0
1	847	899	94.2
2	796	812	98.0
3	845	899	94.0
合計	9,992	10,585	—
平均	832	882	94.4

(12) 短期入所生活介護（ショートステイ・定員3名） 月別利用実績

利用率については、前年度と比較して9.5ポイント低下した。低下した原因は、継続利用していた利用者が有料ホームへの入所で終結となったことと、新規で利用した後に継続利用に結びつかないことで利用率が低下した。

月	利用実人数 (人)	利用延人数 (人)	利用日数 (日)	稼動日数 (日)	毎月の利用率 (%)
4	6	8	43	90	47.8
5	7	8	43	93	46.2
6	7	8	49	90	54.4
7	11	13	63	93	67.7
8	8	10	59	93	63.4
9	10	13	69	90	76.7
10	10	13	58	93	62.4
11	12	14	61	90	67.8
12	8	8	39	93	41.9
1	10	11	51	93	54.8

2	8	9	44	84	52.4
3	10	12	56	93	60.2
合計	107	127	635	1,095	—
平均	8.9	10.6	52.9	91.3	58.0

(13) 短期入所生活介護（ショートステイ） 月別要介護度分布表

前年度は、介護度2と3の利用者が最多であったが、本年度は、介護度4の利用者が最多となった。

(単位：人) 空床ショート含む

月	要支援 1	要支援 2	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合 計
4	0	0	23	4	13	3	0	43
5	0	0	8	11	20	4	0	43
6	0	0	10	14	19	6	0	49
7	0	0	17	16	16	14	0	63
8	0	0	13	16	18	12	0	59
9	0	0	11	14	16	28	0	69
10	0	3	13	14	0	28	0	58
11	0	4	13	18	0	26	0	61
12	0	7	6	16	0	10	0	39
1	0	0	16	17	1	17	0	51
2	0	0	13	14	2	15	0	44
3	0	0	14	14	3	22	3	56
合計	0	14	157	168	108	185	3	635
比率(%)	0	2.2	24.7	26.5	17.0	29.1	0.5	100

(14) 運営推進会議の開催について

ア 神代の杜は地域密着型サービスのため、厚生労働省令で運営推進会議の設置が義務付けられている。これは、地域との連携や施設の適切な運営を実現し、関係者からの要望、助言等を聞く機会を保障するため設置しているものである。概ね2か月に1回の開催が求められ、平成29年度の開催状況は、下記のとおりである。

	開催日	議 題
第1回	4月27日(木)	・平成29年度神代の杜事業計画について ・3月～4月の運営状況について
第2回	6月23日(木)	・5月～6月の運営状況について
第3回	8月24日(木)	・7月～8月の運営状況について
第4回	10月26日(木)	・9月～10月の運営状況について
第5回	12月21日(木)	・11月～12月の運営状況について
第6回	2月22日(木)	・1月～2月の運営状況について

イ 運営推進会議の構成員については、下表のとおりである。 (敬称略)

氏名	選任区分	任期
矢田部 弘行	地域住民代表	平成28年12月1日～ 平成30年8月31日
赤羽 陽子	地域包括支援センター職員	平成28年9月1日～
内藤 敬子	地域有識者	平成30年8月31日

※ この他に入居者及び入居者家族各1人が構成員として加わっている。